

キーワード：

学校組織・指導体制の改善  
基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

# 学力向上に向けた取組

函館市立 中部小 学校

## 1 課題

- 自分の考えをもち、自信をもって学習できる子の育成
- 基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、主体的に学習する子の育成

## 2 課題解決の具体策

- ①学習の約束の徹底 ②読書習慣の確立 ③朝自習の工夫 ④校内研での取組
- ⑤T・T体制の強化 ⑥標準学力（CRT）検査・知能検査の実施及び結果の活用・全国学力・学習状況調査の結果の活用 ⑦家庭学習の習慣化

## 3 取組の概要

- ①まずは全校統一の学習常規を作成、各教室に掲示し、学習に向かう心構えの植え付けを図った。
- ②毎月第2、第4週を「朝の読書週間」とし、8：25～8：35を全校一斉の読書の時間に充てた。各担任も職員朝会終了後（火、水、金曜日は職員朝会を行わず）速やかに教室へ行き、児童と一緒に読書をする。また、毎月1回、ボランティア「アリスの会」の方による読み聞かせ会（低・高ブロック）を実施している。
- ③毎月第1、第3、第5週を「チャレンジタイム週間」とし、8：25～8：35を全校一斉の自習の時間に充てた。水、木、金曜日は職員朝会を行わず、担任が教室において必要に応じて指導をする。主に反復学習を行う。
- ④校内研究に於いて、児童一人一人の実態の把握に努め、その上で算数的活動を意図的・計画的に取り入れた指導法を工夫することによって、基礎・基本の定着を図り、生き生きと自信をもって学校生活をおくれるようにしようと取り組んだ。全担任公開授業研を実施している。
- ⑤TT体制により指導の充実を図っている。今年度配置された特別支援教育支援員は、月～金、午前4時間で、1年生を重点的に指導するとともに各学年1時間入っている。外国語活動サポーターは、5、6年生で各12時間入っている。また、知恵の予算で研究教科の算数TT講師を外部から招き、火曜日4時間、そして、外国語活動講師を外部から招き5、6年生で各10時間TT体制を組み指導している。
- ⑥これらの学力向上プランの成果を検証する手段として、また児童の学力面における実態を把握するために、毎年3学期に継続して目標基準準拠標準学力検査（CRT、全学年）と知能検査（1、4年）を実施することとした。また、6年生は、全国学力・学習状況調査も実施し、結果の活用を図っている。
- ⑦日常における指導や学習状況調査の結果から、家庭における学習習慣に課題があり、低・高学年用の「家庭学習の手引き」を作成し、配布した。学校での授業と家庭での学習をつなげ、基礎的・基本的学習内容が子どもたちに定着するよう指導している。

## 4 成果と課題

- 指導法を工夫する教師の授業力を高めたり、学習の補充をしたりすることにより、子どもの学習へ向かう姿勢が向上し、基礎的・基本的学習内容の定着がやや向上してきた。また、それに伴い、自分の考えを发表或し、友だちの考えを聞こうとしたりするようになってきている。
- 子どもたちの学力は向上してきてはいるが、まだ十分とは言えない。教師の授業力をさらに高めるとともに、教師が指導にあたる時間をさらに工夫したり、家庭学習の習慣をつける方策を考え、徹底した指導を実施する必要がある。

